

妊婦健診の回数をお聞き

土田 百合子

子育て支援について

問 妊婦健診、出産に伴う経済的な不安などで、医療機関への受診をためらう妊婦が増えている。横手市では10回の無料券を発行しているが、厚生労働省では、妊婦健診の回数は出産まで14回から15回が望ましいとしている。妊婦健診、回数拡大についての考えをお聞き。

答 来年度から健診単価が値上がるため公費負担がさらに増大する。現在の公費負担10回を維持する。

5歳児健診の推進について

問 5歳児健診は、就学前の生活習慣全般の指導を目的として実施するものである。近年、発達障害の子どもの早期発見、早期治療の開始が重要で、5歳児健診で発見することができるとされている。適切な対応と対策を講じるために5歳児健診は必要と考える。さらに「学校生活サポート員」の県予算が今年度で廃止される方向であるが、市の考えをお聞き。

答 5歳児健診については、平

成20年度に平鹿地域管内でモデル的に実施し、その結果を踏まえて平成21年度から全市で実施できるように検討する。「学校生活サポート員」については、小・中学校併せて34名のサポート員を配置している。この事業は、子どもたちが安定した状況で学習に臨むために大変重要な事業でもある。今後も継続していく。

有用微生物EM菌使用の水質浄化運動について

問 EM菌は、酵母菌など善玉菌を複合培養したもので、低農薬法や悪臭防止、排水浄化に効果が実証されている。全市の小・中学校のプール清掃に水質浄化運動としての取り組みをお聞き。

答 一定の効果は認めるが、研究者により様々な評価があり、全市で取り組むには時期尚早である。

その他の質問

環境リーダー養成講座開催について
横手病院に女性専門外来設置と訪問看護ステーション化について

雄物川3小学校の統合の時期は

佐藤 清春

農業振興について

問 自己保全や耕作放棄地等遊休農地の有効活用と穀物価格の高騰でエサ高に悩む畜産農家のために、さらには、水田のダム機能により豪雨時の短時間での浸水被害を軽減するためにも、飼料用米の作付け拡大を推進し進める考えはないか。

答 耕畜連携によるホールクロップサイレイジ用稲が49ヘクタール作付けされているが、飼料用米は、種子の確保や刈り取り機械設備、出荷契約等の問題があり、作付けされていない。集約性も含め有効な水田活用となるか検討を進めていきたい。また、利用集積の促進や集落営農組織の受注拡大などを図りながら、遊休農地や自己保全農地の解消に努めたい。

学校統合について

問 雄物川3小学校の統合の時期と、西部地区の3中学校の統合に向けた今後のスケジュールを伺う。

また、学校建設資金に充てる

ため住民参加型市場公募債を発行する考えはないか。

答 合併前の雄物川町からの引継ぎ事項であり、早急に進める必要がある。老朽化の激しい雄物川、大雄、大森の西部3中学校の統合を先に進め、中学校跡地に統合小学校を建設するのが現実的である。しかし、3中学校の統合は建設予定地をどこに絞るかなど課題も多く、具体的スケジュールを明らかにできる段階ではない。

また、公募債は短い期間で計画的に減債基金に積み立てを行なう必要があるなど、財政的に有利な条件とはいえないが、住民と行政との協働の地域づくりには有効な手法であり、発行の可能性について検討したい。

ホールクロップサイレイジ＝家畜飼料用稲

その他の質問

平成20年度予算編成方針について